

合計 100 点 (配点は予想値)

I.

【解答】 [15 点(各 1 点×15)]

- (ア) ① (イ) ④ (ウ) ③ (エ) ④ (オ) ① (カ) ③ (キ) ③  
(ク) ② (ケ) ② (コ) ① (サ) ② (シ) ④ (ス) ① (セ) ②  
(ソ) ③

【解説】

- (ア) pay close attention to A 「A に細心の注意を払う」  
(イ) 空所の直後は形容詞なので、副詞の increasingly を入れる。  
(ウ) every + 数詞 + 複数名詞 「～ごとに」  
(エ) the first few years of life 「生後 2～3 年で」  
(オ) achieve one's goal 「目標を達成する」  
(カ) put differently 「違ったふうに言うと」  
(キ) 時制は過去なので、過去形を用いる。  
(ク) more precisely 「もっと正確に言えば」  
(ケ) one way or another 「何かにつけ」  
(コ) convince A of B 「A に B を確信させる」  
(サ) what S is like 「S はどの様なものか」  
(シ) tell the difference between A and B 「A と B との違いが分かる」  
(ス) 文頭に否定を表す副詞[Only]があるので、倒置形になる。後半の how 節が現在完了形なので、現在形にする。  
(セ) not ... before S V 「…しないうちに～する」  
(ソ) 主語の名詞節が既にされていることを意味しているので、動名詞を用いる。

II.

【解答】 [5 点(各 1 点×5)]

- (ア) ③ (イ) ④ (ウ) ① (エ) ③ (オ) ②

【解説】

- (ア) A : サムと夏の計画のことは話したの?  
B : あいつとはそんなことを話したいとも思わないよ。  
A : ごめんなさい。あなたたちはもうそんな関係ではないということを忘れていたわ。  
\* S is the last + 名詞 + 関係詞節 「S は決して～しない…だ」

- (イ) A : 医師になるのは確かにとてもきついことだわ。  
 B : 本当にそうだけれども、きみは絶対になれるよ。  
 \* be most likely to do 「最も～しそうである」 possible は人を主語に出来ないの  
 で、①②は不可。
- (ウ) A : とても英語が上手ね。かなりよく勉強したのでしょうか。  
 B : その通りだよ。でも本当に助かったのは、1 学期間留学したことね。  
 A : 私もそうしたかったわ。  
 B : 最初は行きたくなかったけれど、父がそうしなさいと言ったの。  
 \* my father told me that I should (go)
- (エ) A : ホストファミリーになって頂いて、ありがとうございます。  
 B : どう致しまして。なぜ日本にいらしたのですか?  
 A : 常々武道に関心がありまして、ここで練習したいと思ったからです。
- (オ) A : あらやだ。携帯を落として、画面を割っちゃったわ。  
 B : 取り換えなければいけないみたいだね。  
 A : こんな時に最悪だわ。いま本当にお金がないのよ。

### III.

【解答】 [20 点(各 2 点×10)]

- (ア) ④ (イ) ① (ウ) ④ (エ) ② (オ) ③ (カ) ④ (キ) ④  
 (ク) ① (ケ) ② (コ) ④

#### 【解説】

- (ア) but → and : 「新しい本を熟読した」というのと「あまり面白くなかった」というのは逆接的な関係にある。
- (イ) her → herself : look at oneself in the mirror 「自分の姿を鏡で見る」
- (ウ) one → it : anything を受けるので it にする。
- (エ) returned to → returned
- (オ) registering with → register with : to の後なので原形に変える。
- (カ) don't hope so → hope not : I hope not. 「そうじゃないといいけれど」
- (キ) make ends → make (both) ends meet : 「生活の収支を合わせる」
- (ク) were falling → was falling : 主語は number なので動詞は単数一致する。
- (ケ) stop the car → to stop the car : try to do 「～しようとする」
- (コ) a obligatory subject → an obligatory subject : 不定冠詞の obligatory は母音で始まるので、a を an に変える

IV.

(英文 1)

【解答】 [30点(各3点×10)]

- (ア) ② (イ) ④ (ウ) ① (エ) ① (オ) ③ (カ) ③ (キ) ①  
(ク) ④ (ケ) ④ (コ) ④

【解説】

(ア) 空所の直後の文で、「すべての検査結果は正常であった」とあるので、**multiple blood tests** 「多数の血液検査」とする。

(イ) **light bulb** というのは、「ひらめき」の比喩的表現。これがわからなくても、文脈から推測できる。つまり、下線部直前の文で、「食べる?」と差し出されたガムを見て、**Barnett** は「無糖」と表示されていることに気付き、そして下線部直後の第4段で、「ソルビトールは腸に吸収されない」ので、下痢の原因になることが述べられていることから判断すればよい。

(ウ) **absorb** 「吸収する」と同義なのは、**soak up**。 **take out** 「持ち出す」 **bring out** 「持ち出す」 **catch on** 「捕まえる」

(エ) 第4段第6文で、「ソルビトールは腸に吸収されず、大量の水を胃腸に流し込む」と述べられている。したがって、①「ソルビトールを摂取しすぎると、胃腸に水が溜まる」が一致する。

(オ) 第5段第1文で、「シュガーレスガムは1日に6本か7本以上で大量に噛むと下痢の原因になることはよく知られている」と述べられている。また、同段第2~4文でも、そのことが繰り返し述べられている。したがって、③「1日に6本か7本以上噛むこと」が一致する。

(カ) 「本文から何が推測できるか?」

① 「**Ethyl** と **Grady** はともに医学的な理由から減量する必要がある」 第1段第6文で、「**Ethyl** は減量に関心があるだけだった」と述べられている。したがって、本文に一致しない。

② 「**Ethyl** は医師の忠告に耳を貸さなかったことがある」 本文に述べられていない。

③ 「不満を言っているが、**Grady** は減量を続けるだろう」 第6段第4文に一致する。

④ 「**Barnett** 医師はあまりにも忙しくて、そのような簡単な症例に関わってはもられない」 **Barnett** 医師が夫妻の診察を繰り返ししていることは本文全体から読み取れる。したがって、本文に一致しない。

(キ) 「本文によれば、正しくないものは以下の中のどれか?」

① 「**Ethyl** と **Grady** はともに下痢で悩んでいた」 第3段第6文で、**Grady** は「下

痢でない」と述べられている。したがって、下痢で悩んでいたのは Ethyl だけなので、これが正解になる。

② 「Barnett 医師は下痢の原因を最終的に突き止めた」 第 3 段第 10 文～第 4 段の内容に一致する。

③ 「ガムは Ethyl が食事をしない方法として役立った」 第 6 段第 2 文に一致する。

④ 「夫妻は Barnett 医師の診察を 2 回以上受けた」 夫妻が何度か診察を受けているのは、テキスト全体からも明確である。しかし、そもそもこの選択肢は、直後の(ク)の設問文に「夫妻が二度目に訪れた」という文言が含まれているので、選択肢として成り立っていない。

(ク) 「本文によれば、その夫婦が 2 回目に訪れた時の Barnett 医師の役割とは何か？」

④ 「新しい食事療法による合併症を分析し、治療すること」 ここで述べられている「合併症」とは、本文の「下痢」のことである。本文では、第 2 段第 1・2 文で「減量を始めた一週間後辺りから」「Ethyl は下痢になり始めた」とあり、その後の第 2～6 段で Barnett 医師がその原因の分析と治療にあたったことが述べられている。

(ケ) 「本文によれば、以下の中のどれが正しいか？」

④ 「Barnett 医師は Ethyl がシュガーレスガムを噛むのを一切禁じた」 第 6 段第 3 文意一致する。

(コ) 「本文に一番相応しい表題を選びなさい」

④ 「不快な状況」 ガムが粘つくことと便の粘着性、そして Ethyl が医師の忠告にもかかわらずガムをかみ続けたいとしつこく主張している状況を捉えた表現となっている。

(英文 2)

【解答】 [30 点(各 3 点×10)]

(サ) ① (シ) ② (ス) ① (セ) ④ (ソ) ① (タ) ③ (チ) ④

(ツ) ④ (テ) ② (ト) ④

【解説】

(サ) 「下線部(サ)と意味的に最も近いのはどれか？」

① 「肉眼解剖学を研究するのに忙しい」 be up to one's neck は「忙殺されている」という意味なので、これが近い。

(シ) 「その父親の娘はなぜ病院にいるのか？」

② 「骨形成不全症の徹底した検査を受けるため」 第 4 段第 3 文後半の内容に一致する。

(ス) 「下線部(ス)と意味的に最も近いのはどれか？」

- ① 「私はその名称を普通の語句に言い換えた」 下線部は「ありふれた言い方に逃げ込んだ」という意味なので、これが最も近い。具体的に言えば、第4段第3文の **osteogenesis imperfecta** 「骨形成不全症」を第4文の **the brittle bone disease** 「骨粗しょう症」と言い換えていることがそれである。
- ② 「私はそれが何を意味するのかを説明することから逃げた」
- ③ 「私は通常のやり方を使うことで自分を守った」
- ④ 「私は従来の治療法をつかって逃げた」

(セ) 「空所(セ)を埋めなさい」

- ① 「この診断を受け入れる容易な方法」
- ② 「良い病院の見つけ方」
- ③ 「最初の骨折はなぜしたか」
- ④ 「診断への厳しい道のり」 空所の直後で、父親が病院を変えながらも正しい診断を得られなかったことが述べられていることを参考にする。

(ソ) 「下線部(ソ)が意味するものに含まれていないのは、以下の中のどれか?」

- ① 「少女にはもっと手術が必要であったこと」 第8段第3文の「手術がもっと必要だと父親は誰かにはっきりと言われたか」という問に対して、第4文で「彼は何も言わなかった」とある。したがって、これが正解になる。
- ② 「その少女の病気は深刻なものであること」 第8段第4文に一致する。
- ③ 「その病気はその少女の人生を変えてしまうこと」 第8段第4文に一致する。
- ④ 「その少女の生活で今までと同じことは何もありえないこと」 第8段第4文に一致する。

(タ) 「空所(タ)を埋めなさい」

- ① 「彼らは、人の目に届かない病院生活を送ることがどの様なものなのかを理解していた」
- ② 「彼らは、父親がどれほど娘を愛しているのかを理解していた」
- ③ 「彼らはこの父親を悲劇的な人物とみていた」 空所直後の第9段第4文で、「恐ろしいことを経験する人」とされていることに一致する。
- ④ 「彼らは、奇病に関する医学的な話に苦しんでいた」

(チ) 「なぜ医学部生たちはセミナー室で宗教について語ったのだろうか?」

- ① 「父親は宗教を熱心に信心していなかったから」
- ② 「父親は自分の信仰心ゆえに娘に尽くせると考えているから」
- ③ 「医学部生たちは患者が亡くなった後どこに行くのか学ばなければならないから」
- ④ 「医学部生たちは家族のために祈っているから」 第9段第4文で、「父親が自分のために祈り、家族のために祈ってくれるようにと彼らに求めた」と述べられている。したがって、本文に一致する。

- (ツ) 「著者はセミナー室で医学部生たちに一番語りたかったことは何か？」
- ① 「治療法に一番希望を開くのは生物学をよく理解することにあるということ」  
生物学的な治療法はいわゆる EBM(evidence-based medicine「科学的な根拠に基づく医療」)であり、後述するような本稿の主題である NBM ではない。
  - ② 「骨形成不全症は小児科学でいつでも現れるものであるということ」
  - ③ 「父親が自分の人生で本当に重要なことを大切にしているということ」
  - ④ 「彼らが患者の入り組んだ話を聞く状況で仕事をしていくということ」 最終段最終文に一致する。
- (テ) 「本文によれば、以下のうちどれが間違っているか」
- ① 「著者と 4 人の学生たちは父親に面会に同意を得た後で会った」 第 4 段第 2 文で、著者たちは『父親』と対面したが、彼はその前に面会することに合意していた」と述べられている。したがって、本文に一致する。
  - ② 「父親の娘は、私たちのグループが父親と面会する前には全く笑わなかった」 第 5 段最終文で、「私たちが父親と会う前に」少女は「用心深く微笑んだ」と述べられている。したがって、本文に一致しない。
  - ③ 「父親は骨形成不全症がどうということなのか 2 週間前には知らなかった」 第 6 段第 2 文で、「彼がそれまでに全く聞いたこともなかった様な病気」と述べられている。したがって、本文に一致する。
  - ④ 「父親は娘の骨は成長するにつれて少し強くなると言われた」 第 8 段第 1 文後半に一致する。
- (ト) 「本文に一番相応しい表題を選びなさい」
- ① 「骨形成不全症」
  - ② 「骨の発達に関する生物学」
  - ③ 「病態生理学の重要性」
  - ④ 「患者が語る話」 本論は、患者の話から病態やその予後だけでなく、患者とその家族の置かれた状況を理解することに関する一論である。いわゆる NBM(narrative-based medicine「物語と対話に基づく医療」)に関するものである。